

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292700133		
法人名	株式会社 ワカバ		
事業所名	湖北台ケアガーデンワカバ		
所在地	270-1132 千葉県我孫子市湖北台10-9-21		
自己評価作成日	令和2年4月30日	評価結果市町村受理日	令和2年9月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	令和2年6月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日のGHの利用者様の個々に合ったレクリエーションの充実を日々考えて試し、まだ出来る部分の発見が来ています。1日1回以上利用者様の笑顔を作れるようコミュニケーションを取っています。車椅子のご利用者様が多く外出レクを行うのが難しくなってきた中、週に1回でもご自分で選んで買物ができる訪問パン屋さんを取り入れるようにした所、思いの外反響が良く喜んで下さっています。また、毎年春に隣の公園の桜が咲くと机や椅子を運び、ご利用者様全員お連れしてお花見会を開いたり、夏にはその公園で地域の夏祭りが開催されるのでご利用者様にも雰囲気から味わっていただくため浴衣を着て参加していただいて盆踊りの観賞を楽しんで頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの理念である「支え愛」を職員間で共通理解を図り、利用者の自立支援に取り組んでいる。言葉かけにはとくに配慮し、信頼関係を深めて意向の把握に努めている。地域との関係も大切にしており、一斉清掃や防災訓練のほか、夏祭りや餅つきなどに利用者も参加しており、夏祭りには利用者も浴衣を着て盆踊りを楽しんでいる。食事は手作りで、参加できる利用者はテーブル拭きや盛り付け、食器拭きなどを手伝っている。管理者は今年度のホームの目標である「情報共有」に手ごたえを感じており、さらに利用者へのよりよい支援につなげたいとしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の運営理念を「支え愛」とし、ご利用者様の自立に向けたケアに対して、職員、ご家族、近隣住民と共に支え合い、愛溢れるケアを行いお手伝い致しますと掲げており、管理者及び職員には理念のとおりに行っているかの確認を随所でしています。	ホームの理念は玄関に掲示し、目につくようにしている。日々、理念に沿った「愛溢れるケア」の実践に取り組んでおり、とくに利用者への声掛けは理念を体現するものとして重要視している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域主催の夏祭りや防災訓練、餅つき大会、クリーン作戦(市の一斉清掃)等の地域行事に参加し、交流を図っています。また、ワカバでは地域との繋がりを深くするために毎年夏祭を開催し地域の方にもご協力いただきながら盛り上げています。	自治会に加入し、夏祭りや餅つき大会、一斉清掃などに参加して、地域の一員としての役割を果たしている。併設の施設と合同で開催している夏祭りや介護予防教室の体操は、ボランティアや地域の人も参加しており、地域との交流の場になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	約3ヶ月に1回の地域包括支援センター主催の地域交流会に職員が参加して地域の方々と一緒に事で実際にやっていた体操やレクリエーションを披露しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者状況や月間行事のレクの取り組み等を報告してそこで出た意見から夏祭りへの協力をしていただいたり、新規利用者を獲得することが出来ています。	運営推進会議は自治会長や民生委員、地域住民、市の担当課職員などの参加で2か月に1回開催している。利用者やスタッフの状況、行事や事故・ヒヤリハットなどを報告し、参加者から意見をもらっている。	運営推進会議は議題を工夫することや、双方向の話し合いとすることが望まれる。また、家族の参加を増やすことも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の湖北台地区担当の方や地域包括支援センターの方と小規模多機能の受入れの状況やGHの空き状況を伝えたり、実際にしている小規模のサービス内容を伝えてご希望があった際には、担当者又は直接ご家族様からご連絡を頂いています。	市の担当課や地域包括支援センターの職員とは、ホームの空き情報を伝えるなど連携を図っている。また、運営推進会議のメンバーとして意見等をもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ会議の中で身体拘束について資料や設問のあるプリントで回答していただき、正しく理解して今の自分自身の対応の仕方が誤っていないか振り返り認知症の方の気持ちの汲み取りをスタッフ同士で意見を出してケア方法を導き出しています。	「身体拘束廃止に関する指針」があり、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は玄関の施錠をせず、利用者が外に出て行く場合は、職員が一緒に行くようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待=手をあげる事だけではではないこと会議や朝礼の中に上げ、利用者への声の掛け方が耳に触る時には職員間や管理者からもその都度注意をしあって防止に努めています。また相手の立場になって考えるよう指導もしています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に後見人様を付けているご利用者様もいますが、管理者自身成年後見制度について勉強不足な所があり、職員にも教えることが出来ていません。今後は必要となってくるご利用者様も出てくると思うので、学ぶ機会を設けられるようにしていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約の際には、ケアマネージャーの協力も得ながら不安等ないように十分な説明を行い、契約・解約後も疑問点に関してはすぐに本部に確認をして迅速にご家族様やご利用者様に分かりやすいように説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からのご要望に対してスタッフ会議や責任者会議にて報告・相談し、また運営推進会議等で報告をしています。	利用者の意向は日々の関わりの中で聞き取り、家族の要望や意見は面会時や行事など家族の来訪時に聞いたり、また電話で把握に努めている。家族の意見から、利用者の整容に力を入れて取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々ケアや業務にあたっての中で気付いた事や改善点を管理者へ報告し、翌日の朝礼時やスタッフ会議時に出た意見や気付きを話し他のスタッフの意見をまとめて実践してみても経過を見てはまた全員から報告を集めて反映させています。	管理者は朝礼や日々の業務のなかで職員の意見や提案を聞いている。職員の提案等は朝礼で共有し、全員で取り組んでいる。個々の職員の相談にも乗り、働きやすい職場づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの力量や勤務状況を見たり他のスタッフから聞いたりして至らない点は個々に指摘をしたり目標を掲げて働くように伝えています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者がスタッフのご利用者の対応の仕方(声の掛け方や介助の仕方)等の力量を評価し、研修を受ける機会は中々難しいですが、対応の仕方の改善点を直接指導して力量をあげていくようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年、市内の小規模事業所合同で小規模多機能とはと交流会を兼ねた勉強会が開催され、参加したスタッフからはとてもいい機会になったといわれています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス始める前に本人に対して必要な配慮(静かに過ごしたいややれることは自分でやりたい等)を伺い初日から安心してご利用頂けるようにスタッフには周知しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前の見学や問い合わせの段階でお困りごとやご要望を伺い、ケアプランに取り入れ、サービス開始してからのご様子も通所ノートや訪問ノートに記載して情報共有しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時に必要な支援を確認し、訪問から開始してみるか通所から開始してみるかをケアマネージャーと協議し、初回の状況も見ながら柔軟に対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	可能な限り在宅で過ごして頂くためにもこちらの一方的な介助にはならないように掃除であればできるお掃除をお願いしたり、食事の盛り付けなどをお願いして一緒にやるようにとスタッフにも伝えて実践しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	契約時に全て事業所任せにされてしまうことのないようにご家族様でご本人支援して頂くこと(病院受診や服薬、安否等)を予め話をし共通認識できるようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所様や通い慣れたお店との関係が今後も続くようにスタッフもご本人と一緒に挨拶したり伝えられることは伝え協力関係にあるようにしています。	友人や知人、親せきや兄弟が訪ねて来る利用者もいる。家族と外食に行ったり、馴染みの美容室に行く人もいるなど、馴染みの人や場所との関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用が曜日ごとに小規模の方は違う為、利用者同士の相性や性格に合わせて座席を変えてみたり、可能であれば曜日を変えてみる等して状況見ながら対応しています。GHも常に相性を見極めて席替えをして対応しています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了された方のご家族様がボランティアで事業所の庭の草取りをしてくださったりすることが数か月ありました。中々契約終了後のフォローの電話等での相談はできていませんが、今後は支援していけるようにしたいと思います。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症が進行すると本人の思いを汲み取るのが難しいため、ご家族様から伺ったり、本人のしたいことを尊重できるようにやっていることを無理には引き止めず、様子を見たりするようにしています。	利用者の表情や様子をよく見ることで、思いや意向をくみ取ることもある。また、家族などに情報をもらうこともある。利用者の発した言葉も大切にしており、記録や朝礼などで共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	コミュニケーションの中からお本人の暮らし方や生活環境に合った支援をしているかをモニタリングしたりスタッフからの情報も併せて経過の把握をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	小規模多機能の方は独居の方が多く1日の過ごし方を把握しきれませんが、会話の中から引き出したり、ご家族様やご近所様に聞いて過ごし方の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	通所や訪問をしていく中でご家族やスタッフからの変化の報告にてご家族と事業所で情報共有できるように変化があった場合には電話にてご家族へ報告したりケアマネージャーと管理者とご家族様との話し合いの機会を設けて介護計画の変更を行っています。	居室担当職員のモニタリングをもとにケアマネージャーがアセスメントをおこない、介護計画の見直しにつなげている。6か月ごとの見直しでは、担当者会議を開催して話し合っている。状態に変化があった場合は、医師などの意見を踏まえ、適切な介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化や気づき等を管理者に報告や相談したりして、朝礼やスタッフ会議にて意見を出し合いケア内容を変えて実践してみている経過の情報共有をして介護計画をケアマネージャーに報告して見直したりしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人のその日の気分や体調に合わせて通所を訪問に切り替えて対応したり、ご家族の状況に合わせて服薬対応や遠方以外の受診同行に対応しています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者様の生活歴やご近所様との関係を把握し、可能な限り在宅で過ごせるようにできること(洗濯や食器洗い、食事の準備など)していただき施設に通所された際にも盛り付けやテーブル拭きなどお手伝いして頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所されてから半年以内には1度ご家族様と訪問診療の佐藤先生と話し合いの機会を設けて事業所と訪問診療医と家族で共通認識できるようにしたり、その都度状態が変わるごとに先生だけでなくご家族にもご説明して支援しています。	ホームの協力医による月2回の訪問診療や週1回の訪問看護で利用者の健康管理をおこなっている。協力医には、夜間帯も対応してもらっている。また、希望により従来からのかかりつけ医を受診している利用者もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回(月4回)訪問看護に来ていただいている看護師に伝えるために、朝の朝礼時に1週間の中で変化のあったことや相談したい事を話し合いをしたりまた、職場内の看護士にも相談し実際に診て頂いてアドバイスを受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問看護で来ていただいている病院に搬送されることもあるので、訪問看護の看護士によく相談を持ち掛けてアドバイスをいただいたり訪問診療の佐藤先生とも診療時や急変時には相談しています。入院時も相談員の方や入院先の看護士と普段の様子や退院に向けての話しをしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所されてから半年以内には1度訪問診療の先生と管理者とご家族様と一緒にサービス担当者会議をしています。また、重度化してきた時にも先生に相談した上でまたご家族との話し合いの席を設けて支援方法の共有をし、スタッフにも話し実践しています。	重度化や終末期に向けた指針は整備されており、入居時に家族に説明し同意を得ている。食事の摂取量の減少や睡眠時間の増加など、状態に変化が見られた場合は家族に再度意思を確認し、医師、家族職員で話し合い、希望に沿って支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応をできる職員が1/3程度の職員しか出来ていない為、今後は応急処置が出来るようにスタッフ会議の研修の一つとして取り入れて行きたいと思っております。また、必ず緊急時は管理者にすぐに連絡するよう指示しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実際にやり、車椅子の方が多いため避難の仕方を消防士の方からアドバイスを頂いたり、地域の防災訓練にも参加したり、運営推進会議では自治会長より協力体制も築いていけるように提案をいただき進めている段階であります。	今年度は消防署立ち合いのもと避難、通報、消火器の訓練を実施した。備蓄は水や食品の他、発電機や非常用コンセントなどを準備している。災害時の地域の協力体制について、自治会長から提案があり検討中である。	利用者の重度化が進んでおり、災害時の利用者の安全確保を課題と考えている。さまざまな訓練の実施や、利用者ごとの避難方法などの整備も望まれる。

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々、利用者様も気分や気持ちも違い、自分は何でもまだ出来るかと思っているので傷つけない声掛けをしたり、怒っている時には理由も伺いますが、少し間を空けるように対応するよう指導しています。	管理者は日頃より言葉掛けに配慮し、自分や自分の身内に置き換えて対応するよう職員に伝えている。利用者の呼称は基本的には苗字に「さんづけ」としている。また、トイレ使用中はドアの外で待つなどプライバシーにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様とレクリエーションをしながらコミュニケーションをとったり帰り支度をされている時にはお話しをして思いを傾聴しています。また、食べたいものを皆様に聞いて実際に買って種類があるものに関しては選んで頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様それぞれの気持ちを優先し、居室で過ごしたくなったら居室に戻って頂いたり、立ち上がった方には単に座ってもらうのではなく、何をしたいのか歩くのをすぐ後ろについて様子をみたりしています。拒否がみられる場合には間を空けたりスタッフを変えるなどして対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日着たいものを着て頂いています。着る服が季節に合っていない方には職員から勧めたり、介助をしています。また、お化粧される方には居室や洗面所にてして頂いて身だしなみを整えています。それぞれ各居室にクシを置いて使用しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週日曜日のご利用者様のリクエストを伺って献立をたてるようにしています。また、盛り付けが上手な方にはお味噌汁やお茶、おかずなどをお手伝いお願いしたり、食後のお皿(重くない)の拭くお手伝いをいただいています。	ホームでは3食手作りの食事を提供している。利用者は盛り付けやテーブル拭きなど、できることを手伝っている。毎週日曜日はリクエストメニューにしており、時にはテイクアウトやデリバリーなども利用している。また、移動販売のパン屋さんも来ており、利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	多いと食べきれないので半量にしたり嚙む力が少し弱い方には刻んで提供したり、水分も目標を決めて促しています。また、むせやすい方にはとろみをつけて提供しています。栄養バランスとして、大豆、魚、肉とメインの振り分けをしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしていただきますが、強く磨きすぎてしまう方には歯科の先生からの勧めでスポンジブラシで対応したり、スポンジブラシの水分でむせてしまう方には口腔専用のウェットティッシュを使って対応しています。舌が汚れている方に関しては舌ブラシを使用して対応しています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄リズムを把握し、こまめにトイレ誘導してなるべくトイレで排泄できるようにしています。それでも便の感覚がなく洋服まで失禁してしまう方は午前中のみ夜用パッドをあててトイレ誘導をしています。	利用者個々の排泄チェック表を参考に、声掛け誘導している。おむつを使用する場合も一人ひとりの状況に合わせて対応している。基本的に日中はトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になってしまうと食欲がなくなったり、酷いと嘔吐してしまうこと、水分が足りなくなったり寝ている時間が長くなると腸の動きが鈍くなることもある等を職員には説明し、繊維質の多い食品や水分を多く摂れるように飲み物を提供したり寝ている時間を短くする等して対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1週間の中で、入浴の予定表は立てていますが、その日に声掛けをして気分が乗らない時は間を空けたり職員を変えてみたり、翌日に再度声を掛けてみたりと個々の気持ちに添って臨機応変に対応しています。	ホームでは毎日お風呂を沸かしており、当日の気分で入りたくないときには無理強いせず翌日に支援するなど、最低でも週2回は入浴ができるよう臨機応変に対応している。季節によってしょうぶ湯やゆず湯など、入浴の楽しみを取り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れた時や眠い時には無理せず居室へ誘導し臥床していただいたり、夜間パッド交換が必要な方でも拒否があまりにも強い時は無理には交換しない・起こさないとしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員には、血栓防止の薬を服用されている方には血が止まりにくいことを説明したり、下剤を飲んでいる方の排便の状態などの確認をしたり、下剤の調整については毎日職員と話し合い情報共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	皆さんそれぞれ得意なが違う為、一緒に同じレクリエーションをするのではなく、個別に塗り絵をしていただいたりお花の水やりをしていただいたり、好きな飲み物をご家族や本人から伺って提供しています。時々食べてみたい物も伺って提供する事もあります。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	車椅子のご利用者様が3分の2を占めているため、中々個別の希望に添える支援が出来ていませんが、地域の行事に参加には力を入れていてその時には外出したり、ご家族様のご協力で美容室などに外出される方もいます。	重度化の進行に伴い車いすの利用者が増えている状況であるが、地域の行事などは職員と一緒に参加し楽しんでいる。時には家族と外出する利用者もいる。また、テラスで日光浴をするなど、できる限り外気に触れる機会を作っている。	業務の流れを見直したり、外出ボランティアや家族などの協力を得て、近くの散歩など外出の機会を増やすことを期待したい。

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少しのお金を持つことで安心されるご利用者様もいらっしゃるのではご家族様に了承の上でお部屋に置いたり、訪問バン屋さんを利用した際にはお金の支払もお願いする事もあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話で話すことは難しいためありませんが、電話がかかってきたことを伝えたり、ご家族から届いたお手紙は読んであげたり直接渡すなどして対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境の配慮として、特に音には配慮しており、茶碗を洗う時のお皿の音であったり、扉の開閉には優しく開閉するなど配慮しています。また、季節を感じて頂くために季節の料理やおやつを取り入れたりカレンダー作りや塗り絵等の作品作りで季節を感じていただいています。	リビングは音が響きやすいため、利用者への声掛けのトーンや生活音に配慮している。利用者は一日の大半をリビングで過ごしており、毎日の清掃や室温に留意し、居心地よく過ごせるよう心がけている。折り紙やぬり絵、手作りカレンダーなどで季節感を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	相性によってはその都度席替えをしてトラブルが起きないように工夫しています。独りになりたい時は居室に戻ることもご家族に転倒してしまうリスクも理解を得て過ごして頂いたりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたお箸や湯呑、枕、化粧道具等、ご家族に説明した上でお持ち頂いてお渡しし、使用して頂く事でご利用者様も安心されています。	各居室にはベッド、エアコン、防火カーテンが設置されている。入居時にはタンスや洋服掛けなど、使い慣れた物を持ってきており、仏壇を置いている利用者もいる。各居室には表札をかけて、部屋を間違えないように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレのマークの表示や使用中の表示、特に夜間はトイレの電気をつけておき少し開けておくことで職員の説明が理解できなくてもその表示や状態を見ることで認識できトイレを利用する事が出来ています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所